

反田恭平さん(ピアノ)

反田恭平ピアノ・リサイタル

全国ツアー2018-2019

2018年9月9日(日) 13:00

サントリーホール 大ホール



© 撮影:早川達也

ステージの上にはピアノ1台とピアニスト一人。
にもかかわらず全国ツアーのチケットはほぼ完売。
サントリーホールの大ホールも満席にしてしまう。
いったいどんなリサイタルなのだろう。その答えを探りたくて足を運んだ。

そして驚いた。演奏を聴きながらオーケストラが頭に浮かび、映画を見ているかのようなスケール。反田さんの演奏を言葉で言い表すとしたら、「魂」を込めた演奏か。あれだけ魂をこめた演奏をした後は心身ともに擦り切れてしまうのではないかと心配になるような演奏。

演奏が終わり、サントリーホールの大ホールを埋めた聴衆ほぼ全員のスタンディングオベーション。3曲の大曲のアンコール。初めてリサイタルに来た人も魂を込めた演奏に心打たれ、熱烈なファンになってしまう演奏だと納得した。

反田恭平ピアノ・リサイタル全国ツアー
2018-2019

ベートーヴェン: 創作主題による 32 の変奏曲 ハ短調 Wo0.80
Beethoven: 32 Variations in C minor, Wo0.80

ベートーヴェン: ピアノソナタ 第8番 ハ短調 作品13 「悲愴」
Beethoven: Piano Sonata No.8 in C minor, Op.13 「Pathétique」

I - Grave-Allegro di molto e con brio C minor
II - Adagio cantabile A-flat major
III - Rondo-Allegro C minor

~~~~~

ベートーヴェン: ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27-2 「月光」  
Beethoven: Piano Sonata No.14 in C-sharp minor, Op.27, No.2 「Moonlight」

I - Adagio sostenuto C-sharp minor  
II - Allegretto D-flat major  
III - Presto agitato C-sharp minor

ベートーヴェン: ピアノソナタ 第23番 ヘ短調 作品57 「熱情」  
Beethoven: Piano Sonata No.23 F minor Op.57 「Appassionata」

I - Allegro assai F minor  
II - Andante con moto D-flat major  
III - Allegro ma non troppo-Presto F minor

2018年9月9日(日) 開演 13:00 会場: サントリーホール 大ホール  
主催: 日本コロムビア、イープラス、サンライズプロモーション東京

アンコール曲:

ショパン: アンダンテ・スピアナートと  
華麗なる大ポロネーズ

ショパン: 24プレリュード Op.28-24

シューマン/リスト: 献呈



## Q&A

反田さんの全国ツアーは19か所を回る。毎回「魂」を込め、心身共にすり減るような演奏。これを支えるものは何なのだろう。そのエネルギーはどこから生まれるのか。反田さんの回答を読むと、少し答えがわかる気がします。是非、ご一読ください♪

Q1. ある対談で、以前いらしたロシアでは壮大な力強い曲が多く、一方、今学んでいるショパンの生まれたポーランドでは繊細な曲を学んでいる。ピアノシモを演奏するために指のコントロールを練習していると話されているのを見ました。また、壮大な部分と繊細な部分のコントラストを出したいとも話されていました。

今日の演奏ではその対比が際立っていたように思いましたが、如何でしょうか。

A1. ありがとうございます。今回は古典派を代表する作曲家「ベートーヴェン」をテーマに全国ツアーを開催致しました。

3年前に出したデビュー盤「リスト」、2ndアルバムの「ラフマニノフ」、そして初ソロ・ツアーでのAとB、2種のプログラムを混同させたツアー連動型CD「月の光」など、ロマン派以降の作品をデビュー当初から弾き続けて来ました。

そしてこの過去がある故、今年の夏ツアーでは敢えて古典派を選択する事が出来ました。音楽家人生はとても長いので、「逆算」をするという事はきっと覚えていた方が良いでしょう。



(ショパン音楽大学のHPより)



© 撮影: 早川達也

留学生活最初の国がロシアだったのは自分にとって大きな財産となりました。道徳的な哲学も、人間がどう音楽と接するべきかも恩師から学びました。

ただ、様々な事柄が重なり、ポーランドで学ぶ事を決意しました。そして現在、世界的なピアニストでもあり指導者でもあるポーランドの教授と一緒に、音作りについて、ポーランド生まれの作曲家について勉強しています。

驚いたのはロシアとポーランドの音楽性についての違いと奏法、趣きです。まだ勉強中の身なので上手く言葉では説明できませんが、ポーランドで勉強してから強音と弱音のコントラストがかなり広がって、深みが増したと実感しています。

今の自分に何が必要か、「逆算」をして学びの優先順位を決めることが出来たので、今回のツアーでの演奏内容は基本的に、ほぼ満足をしています。

**Q2. ショパンの住んだワルシャワでの生活はいかがですか？これまでモスクワやポーランドと旧東欧の国に住んでいらっしゃいますが、ご自分の演奏に何か影響を与えていると思われませんか。**

A2. 相手が体感・経験をした事がないシュチュエーションを人に伝えるのはとても難しい事です。

日本ではマイナス30度を超える地域はほとんどありません。幸いにも僕は一度だけ体感温度マイナス30度強の世界を経験する事が出来ました。寒さと言うのは、暑さよりも音楽と密接な関係があると僕は思っています。現に表題作で寒さを取り上げている音楽は沢山ありますね。

話がそれましたが、民族音楽はそのものです。踊ったり、言語に触れてみたり、一緒に弾いてみなければ分からない事があるのです。

では日本だと味わえないのか？と聞かれるとそうでもないのですが、現地に行ってその文化を学ぶ事で、さらに深い次元へ行けると僕は思っています。



© 撮影: 早川達也

**Q3. クラシック音楽の大衆化、ということを考えていらっしゃるようですが、一般の人とクラシック音楽を遠ざけているのは何だと思われませんか。それを取り除くには何が必要だと思われませんか。**

A3. 正直にお答えすれば、今の僕にはこれといった核心は分かりません。ただ、日本という国がクラシックの音楽界に目を向けて頂ければ、話が変わってくると思います。

そして「見て(結果が)分かる」と言うのは人間が一番好む分野です。例えばスポーツやクイズなど。芸術はそれが中々分かりづらいですから、テレビでも放送しきれない、伝えきれない悩みがあります。



© 撮影: 早川達也

**Q4. 全国ツアーをし、どのコンサートホールでもチケットは完売。ファンクラブもできている。これまでに相当な数の一般の方々にクラシックを広げてきていると思います。クラシック音楽を大衆化してきた、そういった実感はありますか。**

A4. ファンクラブでは嬉しいことに年々会員数が増えて来ている状況です。もう少しですが、まだ万単位ではないです。

そして大衆化しているという実感はありません。やはり「のだめカンタービレ」や「ピアノの森」と言ったマンガという日本独自のルーツからの方が影響力が大きく、あとはフィギュアスケートですね。

Q5. リサイタルを全国ツアーで続けるには、体力、気力、モチベーションを保ち続ける必要があると思いますが、続けていけるのは何を支えにされているのでしょうか。

A5. 「弾かなければ」ではなく「弾きたい」と思って選曲し、ステージに立つのですし、音楽の事を最優先にして生きていくと決めた人生に於いて、ネガティブな感情は一切出ません。



Q6. 毎日、公演と移動でプライベートの時間がなかなか取れないのではないかと思います。プライベートと公演、どのようにしてバランスを取っていらっしゃるのでしょうか。プライベートの時間は何をしてお過ごされていますか。

A.6 幸いにも、お世話になっているエージェントさん方がとても優しく、プライベートの話でも会話が弾みます。移動の時間だったり、一緒にご飯を食べたりし、オフの時でもしっかりとケアしてくれるので分単位秒単位でスケジュールが詰まっている時でも息が詰まりはしません。

一方、完璧なオフの日は基本的に僕は一日中寝ていたり、高校や小中学校の男友達とビリヤードしたり、ダーツ、ボーリング、カラオケ、シュミレーションゴルフ等といった普段の男の子が遊ぶ様なことをしていますよ。

Q7. 反田さんの素顔に迫りたいと思います。一番幸せだなあと思う時はどんな時ですか。自分を一番元気づけてくれるモノ(人、食べ物、言葉等)は何ですか。

A7. 猫ですかね。



今回応援レポートを作成させていただいて、いくつかのキーワードが浮かびました。音楽の事を最優先させて生きていくと「覚悟」を決めた人生。「弾かなければ」ではなく「弾きたい」と思ってステージに立つ。常に「ポジティブ」。前向き。そこから「魂」を込めた演奏が生まれる。

そして、反田さんには人を惹きつける不思議な魅力を感じます。誰にでも心を開いて、正直に自分を出せる素直さ。そのためか反田さんの周りには多くの人が集まるような気がします。

反田さん、これからも反田さんらしい音楽を聴かせてください♪

現在、ショパンの生まれたポーランドにあるショパン音楽大学で学んでいる反田さん。来年の全国ツアーでは、ショパンの名曲の数々を聴かせてくれます！

豆知識

フレデリック・フランソワ・ショパン (1810年3月1日/2月22日説あり～1849年10月17日) 7歳で作曲もし、翌年にはピアニストとして舞台に立つほどの神童ぶりを発揮。1930年、ワルシャワで自作自演のコンサートを開くと一躍楽壇の寵児になる。その後、ウィーンに演奏旅行中、ワルシャワに独立運動が勃発し、帰国することなく1931年パリに移住。肺結核に悩まされながらも数々の名作を世に出す。1949年、パリの地で咯血を繰り返し39歳の生涯を閉じる。ショパンは生涯ピアノの為に夥しい数の曲を作った。どの曲も美しい調べに満ち、詩情の豊かさが彼の作品を不滅のものにした。



(「クラシック作曲家ファイル」中島克麿 株式会社ドレミ楽譜出版社より抜粋)